

持続可能なスポーツイベントへの提案

持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク(SUSPON)
NPO法人 iPledge(アイプレッジ)



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク
Sustainable Sport
NGO and NPO Network

代表 羽仁 カンタ



オリンピック憲章 (Olympic Charter)

オリンピック憲章は、IOCが採択した
基本原則、規則および細則を
成文化したものであり、
オリンピック・ムーブメントの組織
および運営を統括し、
オリンピック競技大会開催の
ための諸条件を規定するものである。



オリンピック開催の目的

- 1) スポーツ
- 2) 文化……文化交流、文化体験
- 3) 環境……持続可能な未来を創る

環境問題に関心を持ち、啓発・実践を通して
その責任を果たすとともに、スポーツ界において、
特にオリンピック競技大会開催について
持続可能な開発を促進すること。





持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク

Sustainable Sport NGO and NPO Network

SUSPON(サスポン)とは

2020年の東京オリンピック・パラリンピックを持続可能な大会とすることをきっかけに、その後の東京、ひいては日本や世界の持続可能な社会づくりにつなげていくことを目指して自ら当事者として活動し、また関係団体に働きかけているNGO/NPOのネットワークです。



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク
Sustainable Sport NGO and NPO Network

なぜ、NGO・NPOが東京2020大会に関わるのか！

★市民参加

「オリンピック/パラリンピック」こそ、市民、企業、行政が参加して、日本の未来であるレガシー(遺産)を作る、そのプロセスや実施にNGO/NPOが影響を与えていくことにより開かれ、透明性のあるものへ。

多くの人々が参加できる仕組みを作り参加型の社会を構築

★横のつながりを活かす

環境だけではなく、人権、福祉など国内外のNGO/NPOが持つネットワークや横のつながりを活かし、幅広い視野で問題を捉え、解決していくことができる。



なぜ、NGO/NPOが東京2020大会に関わるのか！

★対話の場をつくっていく

行政や企業と対立するのではなく、国際的なネットワークや様々な経験を活かして、開催に向けた提案、対話の場を作り、お互いを尊重し、協力し合っていくことこそが、持続可能な未来に向けた唯一の道でしょう。

SDGs・パリ協定に応える 「持続可能な社会」こそが レガシー



SUSPON加盟団体 (2018年8月末現在)

- NPO iPledge (アイプレッジ)
- A SEED JAPAN
- NPO法人インターナショナル世界平和の響き
- 地域環境デザイン研究所 ecotone
- NPO法人ezorock
- 国際環境NGO FoE Japan
- 環境パートナーシップ会議 (EPC)
- 環境リレーションズ研究所
- Climate Youth Japan (CYJ)
- グリーン購入ネットワーク (GPN)
- グリーン連合
- CSOネットワーク
- 持続可能な社会をつくる元気ネット
- 水Do!ネットワーク
- 認定NPO法人 スペースふう
- 地球・人間環境フォーラム
- 日本自然保護協会 (NACS-J)
- 日本野鳥の会

- 代表 羽仁カンタ (NPO iPledge)
- 副代表 星野智子 (環境パートナーシップ会議)
- 事務局長 坂本有希 (地球・人間環境フォーラム)
- SUSPON事務局: 一般財団法人 地球・人間環境フォーラム <http://suspon.net/>



7つの部会

- 実践活動(⇒部会ごとに、視察、ディスカッション、勉強会など)
- 提言活動(⇒部会ごとに、提言内容作成など)

ごみゼロ(廃棄物)

気候変動・エネルギー

責任ある資材調達

生物多様性

SUSPON YOUTH

ボランティア

平和とスポーツ

➤ 状況に応じ増やしていく



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク
Sustainable Sport NGO and NPO Network

参加と協働

➤ 関係者が協働していくためのきっかけ、機会を作っています。

NGO/NPO

企業

個人(専門家)

東京都/環境局・オリパラ局

組織委員会/持続可能性部

★ステークホルダー会議・・・16年5月より、隔月で開催中！

- 7つの部会から提言内容を提示し、議論する場
- ゲストスピーカーを招いての問題提起の場

●議論する場をフラットにつくる

※一方的な場ではなく、加盟団体、東京都、組織委員会などが対等に議論できる場を形成しています。

●東京2020大会に対応できる活動を多くのアクターと協働したい



7つの部会

ごみゼロ(廃棄物)

気候変動・エネルギー

責任ある資材調達

生物多様性

SUSPON YOUTH

ボランティア

平和とスポーツ

➤ 状況に応じ増やしていく



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク
Sustainable Sport NGO and NPO Network

ボランティア 部会

持続可能性に配慮したボランティア活動について議論し、その普及活動に取り組んでいます。

参加団体



環境パートナーシップ
会議



NPO iPledge
(アイプレッジ)



持続可能な社会を
つくる元気ネット



国際青年環境NGO
A SEED JAPAN



環境NGO
ezorock



地域環境デザイン
研究所ecotone



地球・人間環境
フォーラム



持続可能なスポーツイベントを実現する
NGO/NPOネットワーク
Sustainable Sport NGO and NPO Network

問題意識

持続可能性は、私たちがいつまでもどこでも健康的に平和に暮らせるようにするために必要です。スポーツや文化を楽しんだり、災害時に助け合うことも含め、あらゆる社会・経済活動を行う上で大事な考え方です。

このような考え方を普及するために、私たちは、一人ひとりが自発的に行動することが大事だと考えています。社会の課題解決に向けて行動できる人が増えることを願って、持続可能性に配慮したボランティア活動を広げていきます。

目指すもの

- 大会ボランティア、都市ボランティアのすべての人に、持続可能性に関する情報提供を行うための冊子を作成し、研修機会を設ける。
- 大会を契機に持続可能な社会づくりに寄与する人材が増えるよう教育機関や行政・民間企業と連携し、教育プログラムを作成・普及する。



オリンピック・ 未来への提言

ボランティア スタンダード

持続可能な未来をつくる
ボランティアのためのガイド

～ボランティアを受け入れるすべての団体の皆さんへ～

東京2020大会をきっかけに
未来のボランティアスタンダードをつくる！

団体紹介

1

世界は決意できている。

アイブレッジ

NPO iPledge



● 団体概要

- 設立：2014年2月 ● 代表者：羽仁カンタ
- 主な活動地：全国各地の野外音楽フェスティバル、東京・大阪など都市圏中心のフードフェス、鎌倉・逗子・葉山地域の海水浴場、千葉県鴨川地域など。

● 主な活動内容

フジロックフェスティバル、サマーソニック大阪など、年間約30本の様々な野外音楽フェスを中心に、イベントや海岸での環境対策活動を企画し、ボランティアの方と共に実施しています。私たちの活動は「ごみ拾い」ではありません。ごみをポイ捨てする人がいて、そのごみを拾う人がいる。そのような構図のままでは、社会はいつまでも変わらないと考えているからです。誰かがごみを拾うのではなく、イベントに参加するすべての人々が、自分たちの手でごみや資源を分別できるようにすることで、クリーンでピースフルなイベントをつくりあげることを目指しています。また、次世代を担う若者たちに、非日常なイベント空間での体験や気づきを、日常にも持ち帰り意識・行動してほしい、そんな思いで活動しています。

団体のポリシー

- 「ボランティアがごみを拾う」のではなく、来場者のマナーを変えるしくみづくり
- 非日常のイベントでの体験を日常のライフスタイルの変化につなげる
- 共感できる体験、自分ごととして捉えられる体験を生む
- スタッフもボランティアも来場者も、誰もが対等
- 本気で、本音で向き合い支え合うチームワーク

主な活動実績

年間活動イベント：約30本 年間ボランティア参加人数：約2,200人

年間活動日数：約200日 ボランティアコーディネーター人数：約45人

1994年 レゲエ・ジャパン・スプラッシュで活動開始

1998年 フジロックフェスティバルで活動開始

→ごみ・資源の分別ナビゲート、オリジナルごみ袋の配布、キャンペーンブース、ステージアピールを展開

2005年～2012年 ap bank fes

→8年かけて、ごみ・資源は10分別、古古米からごみ袋作成、フードエリアの全面リユース食器導入を実現

2014年～ 花見時期の都内公園、海水浴場、フードフェスなど

→自治体や多様なイベントとの連携、活動の幅が広がる



オリジナルごみ袋を配布！



ごみの分別をサポート

ボランティア育成の工夫ポイント

Point 1

6～12人の班をつくりチームで活動

普段なら接することのないような人とも、出会いやコミュニケーションを大切にすることで視野や価値観を広げる機会を提供します。同時に個人プレーではなく、仲間と協力して一つのことをやり遂げるチームワークの経験を届けたいと思っています。

Point 2

ボランティアの個性を活かした参加型の活動

単なる「人手」と捉えるのではなく、その人の経験や性格、参加した動機や思いを活かすことができる役割を担ってもらいます。また、ボランティアからの提案や意見を受け入れ、活動に反映しています。



ボランティアはプロのスタッフや専門家ではないからこそ、来場者が親しむをもてる存在

Point 3

活動の意義や成果を伝える

活動を通じて何人の来場者に活動の意義を届けることができたか、どれだけの量のごみを削減できたかなど、ボランティアの皆さんが、自分の存在が活動やイベントにどんな影響を与えることができたのかを理解・実感してもらえるように工夫しています。



←ボランティアが笑顔でコミュニケーションをとることで来場者もポジティブな気持ちに。イベントの雰囲気やマナー向上にも

→初対面のボランティア同士が互いに協力して活動し、意見を出しやすい環境をつくっています



受け入れ側のチェックポイント

受け入れ側の Check Point!

ボランティアを受け入れる側の心がけ

ボランティアスタッフに楽しく安全に活動してもらうためには何が必要か。
指示されて動くだけではなく、情報や状況を把握し、
自分で考えて行動してもらうためのチェックポイントをまとめました。

1 活動の意味・自分の役割を理解してもらう

- ☐ 活動の特徴や1日の流れ、役割分担、注意事項を事前のみならず当日も伝える。
- ☐ ボランティア一人ひとりが役割をもてるようにスケジュールや体制を組む。
- ☐ ボランティア活動の内容や責任の大きさに応じて説明会や交流会を実施。事前に不安を解消し、安心して参加できる環境をつくる。
- ☐ 受け入れ団体・運営団体の紹介パンフレットなどがあれば用意する。



2 気持ちよく活動してもらうために必要なこと

- ☐ 休憩、お弁当、水分補給、体調管理に気を配る。
- ☐ 天候を予測して必要な装備を用意する。
- ☐ 対等な立場で話す。上から目線で指示しない。
- ☐ ボランティア同士が交流できる時間をもつ。一体感やチームワークを大切に(1人ではできないこともチームで協力することで実現できる)。
- ☐ 集合写真を撮り、SNSなどを使い瞬時に共有する仕組みをもつ。



3 ボランティアの自発性を引き出すには?

- ☐ 天候や来場者数など、正しくかつ適切な情報を提供する。
- ☐ ボランティアに意見や感想を求めている(話すことで気づきが生まれ、仲間の感想を聞くことで視野が広がることも)。
- ☐ 主催・運営側からのリクエストだけでなく、ボランティアからの相談には親身に耳を傾ける。
- ☐ 必要に応じて活動や運営体制へのアンケートをとり、改善につなげる。

4 当日の雰囲気づくりを大切に

- ☐ 例えば6~12人の班をつくり、年齢や性別などバランスよく出会いや協働の場を形成。
- ☐ 個人プレーではなく、参加者が同じ目的を共有し活動する場を演出する。
- ☐ 構成メンバーを考慮し、1人で初参加した人も馴染めるよう配慮する。
- ☐ アイスブレイキングなどの手法を使いボランティア同士が打ち解け合えるように工夫する。
- ☐ ボランティアを名前で呼ぶ。

6 トラブルを防ぎ、運営側も気持ちよく活動するために

- ☐ ボランティアに任せすぎにしたり1人にせず、スタッフが共に行動する。
- ☐ 活動におけるルールや注意事項は、何度でもしっかりと伝える機会をもつ。
- ☐ 受け入れ団体のニーズと合わない場合や安易なボランティア活動者はお断りすることも大切。
- ☐ 未成年の帰宅時間は安全に帰ることができるよう配慮する。



5 活動の成果や感謝の気持ちを伝える

- ☐ 活動中の写真や全体での集合写真、利用者・来場者・スタッフの声といった反応を事後メールなどで届ける。
- ☐ 活動が終了したあとも連絡を取り、振り返りの場やアンケートなどを作成する。
- ☐ 次の活動やイベントを紹介し、お誘いする。



7 リスクマネジメントを行ない事故を回避

- ☐ 役割分担や責任体制は明確か、責任者は常に最悪のシナリオを考えて動く。
- ☐ 有事の際の避難経路を明確にして運営スタッフは頭に入れておく。
- ☐ 当日の各担当部署との連絡体制を万全にし、円滑なコミュニケーションをとる。
- ☐ コーディネーターマニュアル、活動運営体制などのマニュアルや方法を記した冊子をつくり運営スタッフで共有。

8 ボランティアが学びや気づきを得るために

- ☐ 否定的な言葉を使わない。
- ☐ ボランティアが指示待ちにならず、自ら気づきや提案が生まれるようコーディネートする。
- ☐ ボランティアの参加動機や思いを聞いてみる。

受け入れ側のチェックポイント

2 気持ちよく活動してもらうために必要なこと

- ☐ 休憩、お弁当、水分補給、体調管理に気を配る。
- ☐ 天候を予測して必要な



- ☐ 対等な立場で話す。
上から目線で指示しない。
- ☐ ボランティア同士が交流できる時間をもつ。
一体感やチームワークを大切に(1人ではできないこともチームで協力することで実現できる)。

組みをもつ。

3 ボランティアの自発性を引き出すには？

- ☐ 天候や来場者数など、正しくかつ適

- ☐ ボランティアに意見や感想を求めている(話すことで気づきが生まれ、仲間の感想を聞くことで視野が広がることも)。

でなく、ボランティアからの相談には親身に耳を傾ける。

- ☐ 必要に応じて活動や運営体制へのアンケートをとり、改善につなげる。

ボランティアに参加する側のチェックポイント

参加側の Check Point!

ボランティアに参加する側の心がけ

ボランティアにも様々な種類があり、興味のある内容も人によってそれぞれだと思いますが、ここに書かれていることはどんなボランティアにも共通することです。参加するにあたりどんなことに注意し、心がける必要があるかをまとめました。

1 自発的な気持ちを大切に

- ☐ **目的を明確にする!**
自分が参加する活動は、どのような目的で何を行なう活動なのかを理解する。
- ☐ **意見や提案を伝えてみる**
意見や提案、やってみたいことがあれば積極的にスタッフに伝えてみよう。
- ☐ **無理をしない**
担当の役割はありますが、体調や体力に応じて休憩をとり、楽しく活動できることを大切にする。
- ☐ **真面目な態度で臨む**
参加動機は何であれ、活動に参加することを決めるのは自分自身。不真面目な態度では活動をお断りする場合も。



2 対等な接し方を心がける

- ☐ **ホスピタリティの気持ちを大切に**
ボランティアはアルバイトや仕事とは異なり、誰かに一方的にサービスを提供するための人員ではありません。ホスピタリティ精神を忘れない心がけを。
- ☐ **親しい友人と接する気持ちで**
スタッフやほかのボランティア、来場者など一般の方と接する場合は、下から目線でへりくだったり上から目線で命令するのではなく、親しい友人と接する気持ちで対応しよう。



3 責任をもって活動する

- ☐ **遅刻や早退をしない**
受け入れ団体のほか、活動に関係する多くの団体・企業がボランティアを受け入れるための事前準備をしています。約束したら土壇場のキャンセルや自分勝手な遅刻・早退は厳禁!
- ☐ **節度ある行動を**
ボランティアも運営スタッフの一員。一般の方から見ると、活動中はボランティアも正規のスタッフと同じように見られます。一般的なルールを守り、節度ある行動を心がけよう。
- ☐ **勝手な判断や行動はしない**
万が一トラブルが起きた場合には、最終的にトラブルを起こした本人の責任にもなります。迷うことや困ったことがあれば、勝手な判断や行動は控えてスタッフに伝えて相談しよう。

★ ボランティアとして参加する人が おさえておくべきこと!

- ・自分の体力の限界を把握し、必要に応じて休憩や休みをとりたいと言う。
- ・会場のレイアウトやボランティアの活動拠点になる場所を把握しておく。
- ・当日の持ち物、集合時間などを把握しておく。
- ・前日にしっかり睡眠をとって、朝食を食べてから参加するように心がける。
- ・当日、自分が行なう活動内容を理解しておく。
把握していない場合は前日までに資料やウェブサイトで活動内容を把握
- ・ボランティア活動を通して学びたいことがあれば明確にしておく。
- ・指示されたことをやるだけではなく、どうすればよりよくできるのかを考えて、提案する力をもつ。
- ・自発的に参加する気持ちを忘れない。
自分にはできない、かっこいいボランティアになれている?!
- ・誇りをもって活動する。
- ・ボランティアはイベントや企画の運営側であることを理解して、スタッフとしての自覚をもつ。
- ・決められたルールを守る。
- ・担当場所を離れる際は、必ずコーディネーターに許可を得てから移動する。



1 自発的な気持ちを大切に

- ☐ **目的を明確にする！**
自分が参加する活動は、どのような目的で何を行なう活動なのかを理解する。
- ☐ **意見や提案を伝えてみる**
意見や提案、やってみたいことがあれば積極的にスタッフに伝えてみよう。

担当の役割はありますが、体調や体力に応じて休憩をとり、楽しく活動できることを大切にする。

- ☐ **真面目な態度で臨む**
参加動機は何であれ、活動に真面目な態度では活動をおこなう。

3 責任をもって活動する

- ☐ **遅刻や早退をしない**
受け入れ団体のほか、活動に関係する多くの団体・企業がボランティアを受け入れるための事前準備をしています。約束したら土壇場のキャンセルや自分勝手な遅刻・早退は厳禁！
- ☐ **節度ある行動を**
ボランティアも運営スタッフの一員。一般の方から見ると、活動中はボランティアも正規のスタッフと同じように見られます。一般的なルールを守り、節度ある行動を心がけよう。
- ☐ **勝手な判断や行動はしない**
万が一トラブルが起きた場合には、最終的にトラブルを起こした本人の責任にもなります。迷うことや困ったことがあれば、勝手な判断や行動は控えてスタッフに伝えて相談しよう。

ボランティアに参加する側のチェックポイント

ご静聴ありがとうございました！

